



PRESS RELEASE

タワーレコードクラシック オリジナル企画盤 高音質に特化した新シリーズ「Definition Series」誕生！

第1弾クリュイタンス&ベルリン・フィルの名盤3作品5/27発売！

オリジナル・マスターから最新リマスタリング 豪華デジパック仕様

タワーレコード株式会社(本店所在地:東京都渋谷区 代表取締役社長:嶺脇 育夫 以下タワーレコード)では、株式会社ワーナーミュージック・ジャパンと東京電化株式会社協力の下、タワーレコードクラシック オリジナル企画盤として高音質に特化した新シリーズ「Definition Series(ディフィニション・シリーズ)」3作品をタワーレコードおよびTOWERmini全店(一部店舗を除く)、タワーレコード オンラインにて5月27日(水)より限定盤として発売します。

Definition(ディフィニション)とは、解像度や鮮明さを表す単語。一般的には、ハイディフィニションの略称で、主にテレビ画面などにおける表示が、高精細・高解像度であることに用いられています。音源についても、ハイレゾ化が進んだ現代の音楽環境から多くのご要望に応えるべく、タワーレコードがこれまで発売してきましたオリジナル企画盤の延長として、新たに定義した待望のクラシックシリーズとなります。

今回、その第一弾として発売するのは、アンドレ・クリュイタンス&ベルリン・フィル『ベートーヴェン:交響曲全集(5枚組)』、『ベートーヴェン:序曲集』、『シューベルト:未完成、リスト:前奏曲、ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第3番(ピアノ:タッキー)』の3作品。旧EMIレーベルにクリュイタンスとベルリン・フィルが録音したステレオ録音の曲目で、ベートーヴェンの交響曲全集はステレオ録音の全集。いずれの作品もクラシックファンには人気のある音源にも関わらず、これまで再発売の機会が少なかったため(現在廃盤)、復刻を求めていた音楽ファンのご要望に応える形で、名盤として名高いこれらの音源を初SACDし、発売することにしました。マスター・テープに残されていた素晴らしい音楽は、今の時代だからこそより緻密に堪能できるとも言えます。SACDハイブリッド盤(ディスクにSACD層とCD層が同時に収録されており、SACD専用プレーヤー、通常のCDプレーヤーどちらでも再生可能。)として、高品位な音質で歴史的な名盤をお楽しみいただけます。

また、今回の復刻のために、イギリス本国にあるマスター・テープから96kHz/24bitにデジタル化SACD層用、CD層用、それぞれ別個にマスタリングを実施。マスタリング・エンジニアには、他の高音質レーベルや、これまでにも様々な優秀録音を手掛けてきた、杉本一家氏に担当していただきました。

さらに、CDが収められたケースはデジパック仕様(5枚組BOXも1枚毎にデジパックで収納)。紙質も重量感のある素材を使用し、モノとしてもこだわっています。各ジャケットには、仮盤初出時のオリジナル・ジャケット・デザインを用いており(一部を除く)、復刻盤として価値あるモノづくりを目指しました。

- Definition Series 紹介ページ URL http://tower.jp/article/feature_item/2015/04/30/1101



■ 本件に関するお問合せ先 ■

タワーレコード株式会社 広報室 担当: 谷河(やがわ)、松本、伊早坂 TEL 03-4332-0705 E-mail press@tower.co.jp

◆ベートーヴェン「交響曲全集/アンドレ・クリュイタンス、ベルリン・フィル 他」◆

オリジナル・マスターからの最新リマスタリングで、鮮やかな響きが甦る！

偉大なベートーヴェンの名演盤を SACD ハイブリッド盤で復刻！

ベルギー出身として主にフランスで活躍した、日本でも未だに人気が高いアンドレ・クリュイタンスが、ベルリン・フィルと旧 EMI レーベルに録音した屈指の名盤。今回の復刻のために、イギリスにあるマスター・テープから最新 96kHz/24bit でデジタル化したマスターを用い、SACD 層、CD 層別々にマスタリングを新規で行いました。永久保存盤。

当セットに収録されているのは、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団が、1 人の指揮者のもとで初めてセッション録音で完成させた「ベートーヴェン：交響曲全集」です。仏パテ＝マルコニー社が同じく EMI 系の独エレクトローラ社を通じて、ベルリン・フィルに提案したもので、1957 年 5 月からベルリン・フィルがステレオ方式による録音を開始したため、過去にモノラルで収録済していた第 6 番と第 7 番とは別に、ステレオ再録音を含め、交響曲全集として完成したものです。すでにカラヤンが芸術監督兼終身指揮者に就任してからの録音ですが、フルトヴェングラー時代のベルリン・フィルのサウンドの名残りを聴くことができる点でも、発売当初から注目されました。



この時期のベルリン・フィルには、フルートのニコレ(1959 年退団)をはじめ、オーボエのシュタインス、クラリネットのシユテールといったいわゆる伝説の奏者たちが主体となった木管セクションが弦楽器と並んでかつての重厚な響きを堅持しており(ほぼこの時期にコッホやライスターも入団)、後のカラヤン時代とは異なる、前時代の響きを聞くことができます。フルトヴェングラー時代の面影を残しつつも、カラヤンのよって変貌を遂げつつあった名門オケの響きが残されているのです。そこに、クリュイタンスという別の響きの概念を持った指揮者が存在することで成り立つこの盤の音色は貴重であり、当時も重要なレパートリーであったベートーヴェンに、新たな一面が生まれ出たことは興味深い事実です。典雅なクリュイタンスと、当時インターナショナルな響きでは無論なかったベルリン・フィルというローカルな響きが融合した音色は、未だにも我々の心に響いてきます。

個々の演奏は曲によって魅力が多少異なります。中でも「英雄」や第 5 番、第 7 番は現代においても屈指の名演。「第 9」から始まった録音は、ほぼ同時に録音された「第 8 番」まではステレオ初期の風情を残していますが、以降、収録技術も向上を重ね、後の録音では豊かな響きの上に構築された明るめの音色を基本に、当時としても最高峰のベートーヴェン演奏が繰り広げられます。

音的にも、今回の復刻によって、ピラミッド型の当時の重厚なベルリン・フィルの響きが蘇りました。各楽器の分離も向上し、これまで塊であった響きがほぐれ、各楽器の音色をより堪能することができます。

【収録曲】ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲全集

<DISC1>1. 交響曲第 1 番 ハ長調 作品 21 2. 交響曲第 3 番 変ホ長調 作品 55 「英雄」

<DISC2>3. 交響曲第 2 番 ニ長調 作品 36 4. 交響曲第 4 番 変ロ長調 作品 60

<DISC3>5. 交響曲第 5 番 ハ短調 作品 67 「運命」 6. 交響曲第 7 番 イ長調 作品 92

<DISC4>7. 交響曲第 6 番 へ長調 作品 68 「田園」 8. 交響曲第 8 番 へ長調 作品 93

<DISC5>9. 交響曲第 9 番 ニ短調 作品 125 「合唱」

【品番】TDSA-1/5 (5SACD ハイブリッド) 【価格】¥10,000+税

【演奏】グレ・ブラウエンステイン(ソプラノ)、ケルステイン・メイエル(コントラルト)、ニコライ・ゲッダ(テノール)、フレデリック・ガスリー(バス)、聖ヘドヴィヒ教会合唱団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、アンドレ・クリュイタンス(指揮)

【録音】1957 年 12 月(8,9)、1958 年 3 月(5)、1958 年 12 月(1,2)、1959 年 4 月(3)、1959 年 5 月(4)、1960 年 3 月(6,7) グリューネヴァルト教会、ベルリン

【原盤レーベル】Warner Classics(旧 EMI 音源)

※ SACD ハイブリッド盤

※ 歌詞対訳付(DISC5)

※ 2015 年最新マスタリング音源使用

※ オリジナル・ジャケット・デザイン使用(各ディスクにも使用。裏ジャケットも解説書にモノクロで掲示。一部を除く。)

※ 解説:満津岡信育氏(解説書全38ページ)

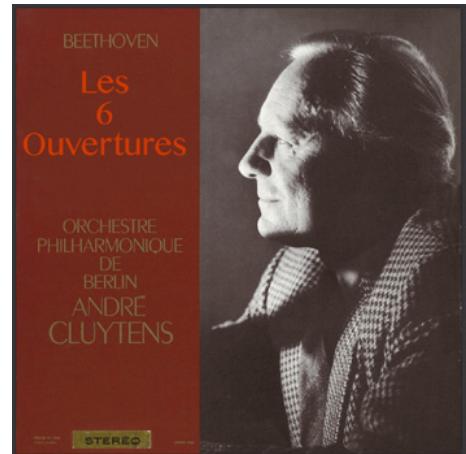
◆ベートーヴェン:序曲集/アンドレ・クリュイタンス、ベルリン・フィル◆

オリジナル・マスターからの最新リマスタリングで、鮮やかな響きが甦る！

ステレオ録音による「ベートーヴェン:序曲集」を集成。量感溢れる弦、晴朗な木管群！

1958年録音の「レオノーレ序曲」第3番から、1960年の「フィデリオ」序曲まで全6曲のステレオ録音を収録。これらの序曲集は、当初よりまとめて発売された訳ではなく、交響曲の余白等で初出となった後に、LPの再発盤として集積して発売されたのが最初です。そのため、これまでのタワー企画盤のコンセプトとしては、オリジナル・ジャケット・デザインを使用しているのが常ですが、今回の復刻に際しては余白に入っていた交響曲のジャケット・デザイン(第2番や第3番等で使われた右部分のクリュイタンスの横顔があるジャケット)の左側文字部分を変更して使用しました。

この時期のベルリン・フィルには、フルートのニコレ(1959年退団)をはじめ、オーボエのシュタインス、クラリネットのシュテールといったいわゆる伝説の奏者たちが主体となった木管セクションが弦楽器と並んでかつての重厚な響きを堅持しており(ほぼこの時期にコッホやライスターも入団)、後のカラヤン時代とは異なる、前時代の響きを聴くことができます。フルトヴェングラー時代の面影を残しつつも、カラヤンのよって変貌を遂げつつあった名門オケのひと時の響きが残されているのです。そこに、クリュイタンスという別の響きの概念を持った指揮者が存在することで成り立つこの盤の音色は貴重であり、むしろベートーヴェンという彼らにとってスタンダードなレパートリーがより魅力的に奏でられているのは面白い現象と言えるでしょう。この時期、ベルリン・フィルによるベートーヴェンの序曲集は様々な指揮者と複数録音があり、中でも同じレベルの録音となるヴァンデルノートとの比較は面白いです(1960年頃の録音。曲は「アテネの廃墟」序曲以外同じ。タワー企画盤 QIAG50072で発売中)。音的にも、今回の復刻によって、ピラミッド型の当時の重厚なベルリン・フィルの響きが蘇りました。各楽器の分離も向上し、これまで塊であった響きがほぐれ、各楽器の音色をより堪能することができます。



【収録曲】ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン:序曲集

1. 《レオノーレ》序曲 第3番 作品 72b
2. 劇音楽《コリオラン》序曲 作品 62
3. バレエ音楽《プロメテウスの創造物》序曲 Op.43
4. 劇音楽《エグモント》序曲 作品 84
5. 劇音楽《アテネの廃墟》序曲 作品 113
6. 歌劇《フィデリオ》序曲 作品 72c

【品番】TDSA-6 (SACD ハイブリッド)

【価格】¥2,500+税

【演奏】ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、アンドレ・クリュイタンス(指揮)

【録音】1958年3月(1)、1959年4月(2,3)、1960年3月(4,5)、1960年11月(6) グリューネヴァルト教会、ベルリン

【原盤レベル】Warner Classics(旧 EMI 音源)

※ SACD ハイブリッド盤

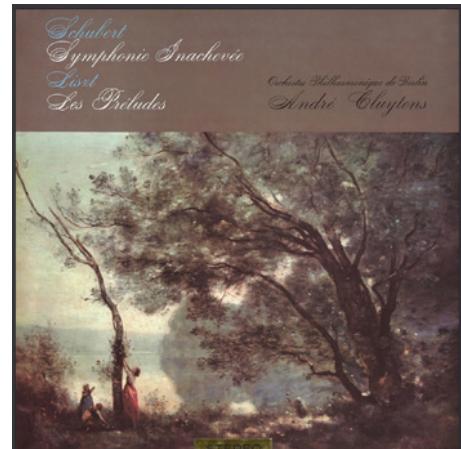
※ 2015年最新マスタリング音源使用

※ 解説:満津岡信育氏(解説書全11ページ)

◆シーベルト「交響曲第8番「未完成」、リスト：交響詩「前奏曲」、ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番
/ガブリエル・タッキー／ノ、アンドレ・クリュイタンス、ベルリン・フィル」◆

オリジナル・マスターからの最新リマスタリングで、鮮やかな響きが甦る！
クリュイタンス&ベルリン・フィルの貴重な名演集。タッキー／ノとのレアな協奏曲も収録！

クリュイタンスとベルリン・フィルハーモニーが吹き込んだLP2枚分の録音を1枚に収めた、長時間収録盤。「未完成」と「前奏曲」は、初出時のみこの組み合わせで発売されたものの、以降「未完成」は「運命」とのカッティングが主となり、LP時代には日本では一度もこの組み合わせで発売されたことはありませんでした。「未完成」と「前奏曲」とともに遅めのテンポで始まり、じっくりと踏みしめた上で主部が展開するさまは、熟達した者のみがなし得たひとつの境地を垣間見るように、まさに圧巻の出来です。ベートーヴェンの交響曲全曲を含む複数のプロジェクトを遂行してきた両者とレーベルにとって、歴史的な名演となったことは疑いの余地がありません。音的にも、今回の復刻によって、ピラミッド型の当時の重厚なベルリン・フィルの響きが蘇りました。各楽器の分離も向上し、これまで塊であった響きがほぐれ、各楽器の音色をより堪能することができます。



またこのアルバムのもうひとつの収録曲であるベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番は、クリュイタンス&ベルリン・フィルの最後の収録となった1962年1月の録音。この録音はLP時代でも途中から再発売がされなくなり、CD時代となって復刻はされたものの、ほとんど流通しなかった稀少な盤です。当時20代のタッキー／ノによるピアノは、それまでの大家による伝統的なピアノというよりむしろ、躍動感のあるタッチで活発なベートーヴェン像を描いており、若きタッキー／ノによる新しいベートーヴェン像を確立するかのような筆致が特徴です。それにも増して魅力的なのがバックをつとめるクリュイタンスとベルリン・フィルであり、その精巧な響きはこのコンビが達成したひとつの到達点といえる出来です。それだけにこの録音以降収録が無かったのは残念です。尚、この曲以前はグリューネヴァルト教会で収録されていましたが、この録音のみ以降よく使用されるイエス・キリスト教会となっています。響きの質が異なりますので、その点でも興味深い録音です。

【収録曲】

1. フランツ・シーベルト：交響曲 第8(7)番 ロ短調 D.759《未完成》
2. フランツ・リスト：交響詩「前奏曲(レ・プレリュード)」
3. ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37

【品番】TDSA-7 (SACDハイブリッド)

【価格】¥2,500+税

【演奏】ガブリエル・タッキー／ノ(ピアノ)(3)、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、アンドレ・クリュイタンス(指揮)

【録音】1960年11月(1,2) グリューネヴァルト教会、ベルリン、1962年1月(3) イエス・キリスト教会、ベルリン

【原盤レーベル】Warner Classics(旧 EMI 音源)

※ SACDハイブリッド盤

※ 2015年最新マスタリング音源使用

※ オリジナル・ジャケット・デザイン使用

※ 解説:満津岡信育氏(解説書全11ページ)